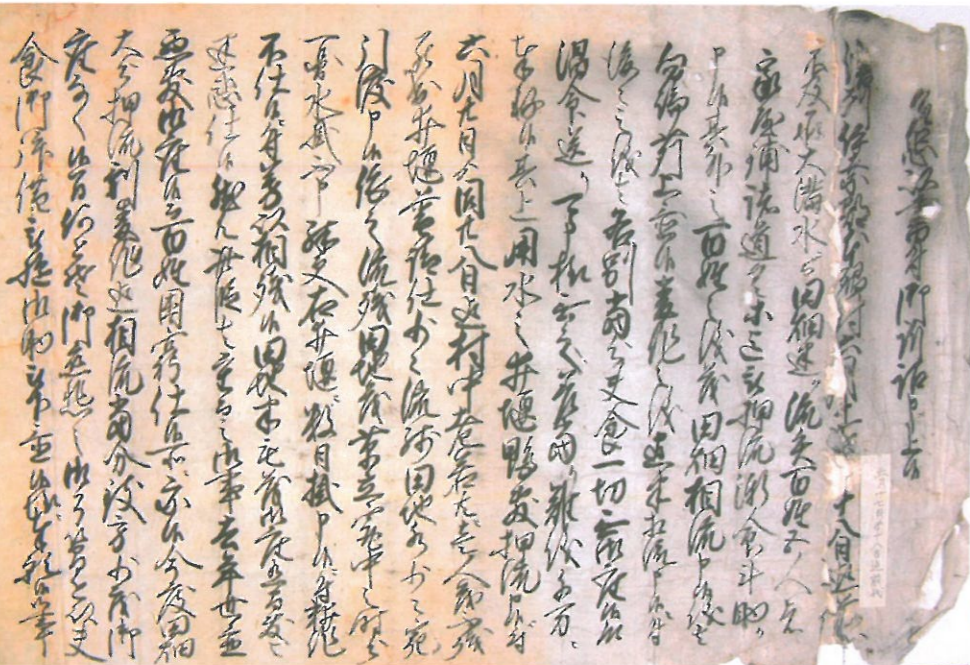


# 飯島陣屋だより

NO.17  
2016

発行/飯島町歴史民俗資料館 〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島 2309-1 TEL 0265-86-4212 FAX 0265-86-5596



正徳5(1715)年に伊那谷を襲った大水害。未年だったことから「未満水」と語り継がれています。町内でも河川が氾濫し、田畑や家屋が流失するなど、甚大な被害を受けました。

古文書

# 300年前の大水害を伝えるもの

石碑



隅之木碑 本郷第6の国道153号南西に立ち、現在の与田切川流路からは300mも離れている(背景に見えるのは国道バイパスの与田切大橋)

正徳5年「忬恐以書付御訴申上候」(部分) 本郷区有文書

災害が発生したこの年の旧暦6月17、18日は新暦では7月17、18日にあたり、今も頻発する梅雨末豪雨の時期です。写真の古文書は、被害をこうむった翌月、本郷村が飯島陣屋に食料の支援を願ったものです(支援といっても「拝借」ですが)。収穫したばかりの麦まで流され、途方に暮れた様子が読み取れます。

【古文書の読み下し】 ※読みやすく改めています

恐れながら書付をもつて御訴申上げ候  
一 信州伊那郡本郷村、六月十七日より十八日まで前代承り及ばざる大満水にて、田畑ごとく流失、百姓五人は家屋敷、諸道具等まで押し流され、ようやく命ばかり助り申し候。そのほかの百姓の儀も、田畑相流れ申し候儀は、もちろん、取り上げ置き候。先作の儀、過半相流れ申し候に付き、後々の儀は格別(当分天食(食料))一切御座なく候。後命送り申すへき様これなく、差し当り難儀千方に存じ奉り候。その上用水の井敷おびたしく押し流れ申し候に付き、六月二十日より二十三日まで村中老若共に老人も残らずまかり出て、井敷普請工事仕り、少々流れ残る田地水少々ずつ引き渡し申し候。これにより流れ残る田地も皆立中(最中の時分)一田水掛かり申す。ことさら右井敷に致し掛り候に付き、耕作仕らず候に付き、かたがたもつて相残り候田地半も御座あるまじくと迷惑仕り候。しかれどもこの段は重なり候。去年世並みあしく御座候。百姓困窮仕り候所に、また今年度世並み大分押し流れ、あまうさえ来作まで相流れ、当分致し方少も御座なく候。あいた何とぞ御慈悲の御了簡を、もつて、夫、食御拝借遊ばされ、御助け下し置かれ候様、願ひ奉り候御事。

与田切川右岸の一段小高い場所に「隅之木碑」と題された石碑が立っています。碑面には、「昔ここに『隅の木』と呼ばれた栗の木があり、未満水のと き、身一つで逃げてきた人々が木陰に集って危難を脱した」と漢文体で刻まれています。大正のころその大木が枯れてしまったことを惜しみ、昭和4年に建立された石碑です。平成27年、防災意識を後世に引き継ぐ遺産として、「人と暮らしの伊那谷遺産」に選定されました。

## 出来事あれこれ

### ■150年前の暮らしで宿泊体験



飯島町生涯学習センター講座「タイムトラベルクラブ」で、飯島陣屋での宿泊体験を行っています。かまど・いろりでの調理、薄暗いいろりばたでの食事に加え、平成27年度は夜、提灯を手にホテル観賞に出かけました。写真は手作りの竹串に魚を刺しているところです。初めての体験がいっぱいの1泊2日でした。

### ■中学生に戦争体験を伝える



たびたび学校へ来る軍人の凛々しい姿に憧れて軍国少年になったという今村茂義さん(86歳)。14歳で海軍に志願し、入隊して体験したことを、平成27年11月、あのご自身と同じ年齢の中学2年生に語りました。防府海軍通信学校(山口県)では、「軍人精神注入棒」で殴打されるなど

厳しい訓練を受けつつも、郷里の父母を安心させるハガキを送り続けたことや、大竹海軍潜水学校(広島県)で人間魚雷の訓練中に見た原爆の惨状。70年経っても、つい昨日のこのように思われるといいます。

何も知らされないまま「お国のため」と突き進んだ当時の世情を振り返り、2度とあのような忌まわしい戦争を繰り返すことがないようにと訴えました。

### ■飯島陣屋こどもの日



毎年5月5日は「飯島陣屋こどもの日!」。小人料金が無料となります。「五平餅づくり」体験もあります(先着20名のみ)。かまど炊きご飯をつぶして丸め、手作りの竹串に挿したいろいろな熾き火でこんがり。胡桃と山椒の味噌を塗ってもうひとつあぶり。毎年大好評です!

### ■飯島陣屋こどもの日



平成27年9月、飯島陣屋の庭の通路に石畳を敷く工事を行いました。これで雨天時も大丈夫。足もとはぬかるみません。

敷石には、昭和16年に建てられ、平成13年に惜しまれながら取り壊された飯島町役場旧庁舎に使われていた石材を再利用しました。

### ■高経大生とワークショップ



毎年ゼミ合宿で飯島陣屋を訪れてくださる高経経済大学地域政策学部地域史ゼミの学生さんたちが、飯島陣屋友の会とともに「歴史を活かした地域づくり」をテーマにワークショップを行いました。

地域の歴史は地域づくりの大事な要素です。学生ならではの視点でのイベント提案やSNSの活用、歴史的景観や陣嶺館の再整備などの意見も出され、自由な発想で歴史に親しみ、深く知ることの必要性を再確認しました。

地域の歴史は地域づくりの大事な要素です。学生ならではの視点でのイベント提案やSNSの活用、歴史的景観や陣嶺館の再整備などの意見も出され、自由な発想で歴史に親しみ、深く知ることの必要性を再確認しました。

### ■外国の研修生が日本文化体験



青年海外協力隊の青年研修事業で来日した海外の若者の日本文化体験を受け入れています。平成23年度はアフリカ各国、平成26年度はラオス、平成27年度はモンゴルの皆さんが飯島陣屋を見学し、「サムライ・オフィス」を体感されました。着物を着ると大はしゃぎ。なかでも、袴が一番人気です。

## お仲間募集中!

### 古文書クラブ

飯島町に残る古文書を読んで歴史を実感しています。一見難しそうですが、英語よりはるかに早くマスターできるかも?とても文字とは思えない文字が読めたときの爽快感ほたまりません。

活動日 毎月第3木曜日午前中

### わらじクラブ

わらじ、布ぞうり、猫づら、俵など、稲わらを使ったモノ作りを楽しんでいます。わら細工ができる人は今や絶滅危惧種ですが、古いものこそ今は新しい! エコな伝統技術を身につけて、新鮮な造形に挑戦しませんか。

活動日 火曜日午前中

### 飯島陣屋友の会

おもに飯島陣屋の館内外の環境整備をするボランティアグループです。お掃除のあとお茶を飲みながらのおしゃべりは最高! 陣屋で行われるイベントのお手伝いもしています。

活動日 毎月第2・第4火曜日

### 生け花ボランティア

飯島陣屋の館内2ヶ所に生花を活けてくださる方を募集します。

活動日 金曜日または土曜日

### 伊那谷の南北の山まで見える台地

七久保の新田から針ヶ平にかけての一带は、与田切川の扇状地として形成された後、東から太平洋側のプレートが押す力によって盛り上がり、周囲より高くなった。

写真の場所はJR七久保駅の南南東450mで、標高は七久保駅付近より約3m高い698.8m。西の木曾山脈や東の赤石山地はもちろん、北は辰野・諏訪方面の山々、南は三河高原(阿南地域)や下條山脈まで遠望できる。



①

### 与田切川左岸に点在する巨大な礫

与田切川左岸に位置する豊岡耕地には、清水坂のお不動様(集会所南)をはじめ、大きな礫が点在している。写真は広域農道の西60mの場所にある巨礫。長径8.5m、周囲23.5mもある。

上流部の平沢山の神の南には、さらに巨大な礫がある。下流に行くにつれて小さくなるが、鳥居原小段にも長径2.9mの礫がある。

巨礫は、水に浮かんで流れてきてそこに着地した。



②

### 鳥居原小段の崖下の礫層

鳥居原小段から崖を降りると、大きな礫がごろごろしている。礫の種類は、変成岩も交じるが大半は伊奈川花崗岩。上記豊岡地籍の巨礫も同じ伊奈川花崗岩。

伊奈川花崗岩は木曾山脈主峰部の岩石。黒覆山付近が変成岩で、シオジ平より下は市田花崗岩。豊岡や鳥居原小段にまで主峰部の岩石が運ばれてきたことになる。

与田切川の最上流部に日本で最も大規模な崩落地帯である百間なぎがある。豊岡や鳥居原小段の伊奈川花崗岩は、百間なぎからの土石流が豊岡や鳥居原小段の地形を造ったことを物語っている。

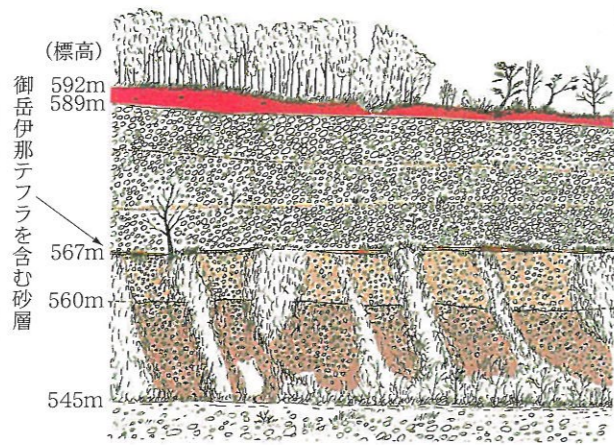


③

### 与田切川左岸、鳥居原の崖(スケッチ:松島信幸氏)

国道153号伊南バイパスの与田切大橋から与田切川左岸の切り立った崖が見える。今はかなり植生に覆われているが、昭和36年の豪雨災害(三六災害)からしばらくは新鮮な露頭が調査できた。

火山灰土の下に花崗岩を主体とする礫層が40m以上堆積している。上部は鳥居原礫層で、御岳伊那テフラ(9~9.5万年前の御岳山の噴火による軽石)を含む砂層を挟んで、やや風化が進んだ与田切礫層、さらに風化が進んだ田切礫層と続く。田切礫層は現河床面よりさらに下に続いていく。



右肩上がりで堆積している鳥居原礫層

右肩上がり(○の向き)の礫の堆積は、水の流れが左(西)からだったことを示す。飯島町の天竜川右岸地域は、木曾山脈からのたび重なる土石流によって形成された。その結果、天竜川は東の伊那山地へ押し付けられた。



④



⑤

田切礫層の崖下に造られた横井戸井戸というと普通は垂直に掘るが、断層面では断層の運動によって圧縮された粘土層が良質の不透水層となるため、横に掘ると容易に水が出る。水道が普及する前は田切断層・岩間断層の崖下で盛んに利用されていた。

飯島陣屋では横井戸の水を池に引いている(写真)。田切断層では赤坂の国道153号西の崖下など、岩間断層では千人塚ふもとの北村などで今も利用されていて、大宮七窪神社などでは湧水が見られる。



⑥

### 赤土の正体は?

町内の多くの場所では、黒土を掘り進むと赤土が現れる。赤土は火山灰や軽石が長年の間に風化し、鉄分が錆びたものが混じったもの。写真は赤土が厚く堆積している春日平。

このような火山噴出物をテフラと呼ぶ。御嶽山の噴出物が多いが、南九州で大噴火した火山からも飛来している。

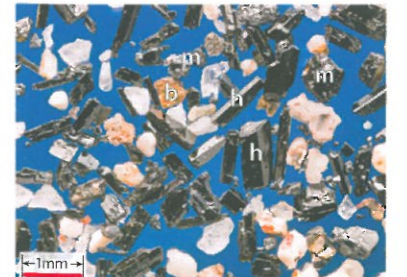


⑦

### 中田切川右岸に残る「中田切川テフラ」(赤褐色の部分)

現在知られている町内で最も古いテフラは中田切川テフラ。約60万年前の御嶽火山噴出物。

テフラに含まれる鉱物の種類や特徴により、いつどこから飛来したものが判断できる。



中田切川テフラの鉱物結晶(撮影:寺平 宏氏)  
h:角閃石 m:磁鉄鉱 b:黒雲母

平成28年、松島信幸先生(高森町)と寺平宏先生(中川村)を講師に講演会を開催し、その後、全5回のジオツアーでは町内各所へ出かけ、飯島町の地形地質を学びました。

また、文化財ガイドブックとして冊子を刊行しました(写真右)。飯島陣屋と飯島町教育委員会でお求めいただけます(1部300円)。



寺平宏編『飯島町の大地の成り立ち』



木曾山脈(中央アルプス)は日本で最も短時間で急峻に高くなった。隆起が本格化したのはわずか80万年前。山が隆起するとき、裾野は重力によって里にせりだしてくる。岩間断層・田切断層は、水平に近い角度の逆断層で、「前ずれ断層」と呼ぶのがふさわしい。

登山しなくてもカールが見えるのは日本中で上伊那南部だけ

陣馬形山から見た飯島町 他地域ではヘリコプターをチャーターしないと見ることができないような景色。陣馬形山は飯島町の地形観察に絶好の場所。標高1445mの山頂近くまで車で行くことができる。

# 飯島町の大地の不思議